

第20回  
デッドセンター映画祭  
長編グランプリ

第16回  
リールハート映画祭  
最優秀長編映画

第10回  
シネファンタジー  
最優秀作品賞

第17回  
ベンド映画祭  
撮影賞

第17回  
SKIPシネ国際Dシネマ映画祭  
SKIPシネアワード

第15回  
大阪アジア映画祭  
正式出品

第24回  
ファンタジア映画祭  
正式出品

第33回  
東京国際映画祭  
正式出品

# 写真の女



\*女は男を呑み込む生物。

永井秀樹 大滝樹 猪股俊明 鯉沼トキ  
脚本 監督 串田仕史

プロデューサー：西村伸 佐藤洋輔 助監督：高橋知子 撮影：大石優 照明：佐伯琢磨 美術：奥谷駿友 衣装：櫻井まさえ 特殊メイク：西村善廣 キャスティング：中野辰哉  
編集：山本ガウディ徳 整音：由井昌宏 音楽：伏見仁志 斎藤茂彦 レタッチャー：香川孝子 カマキリ指導：渡部宏 宣伝：岩館佐知子  
協力：スタジオ・アイ 竹本浩 テルモ クランク アップルボックス ホンズ ビースリー ピラミッドフィルム クアドラ  
企画 / 製作 / 配給：ピラミッドフィルム

<https://womanofthephoto.com>

傑作だと思う。このオリジナリティ。  
こんな映画を作りたい。やられた！くそ〜似た映画をこっそり作ってやる！  
— 古舘寛治 (俳優)

とても鋭く、痛い — 豊田エリー (女優)

力強い令和の異色作！  
— 毎熊克哉 (俳優)

リアルなようなファンタジーのような、  
古いような新しいような。  
不思議な面白さがあった。  
— 沖田修一 (映画監督)

人はいつも、嘘と本当の間で揺れ動く。  
“写真の女”はそんな人生を写し撮った  
哀しくも愛おしい映画だ。  
— 安藤航平 (映像作家)

めまいがするような特異な作品。  
ファンタジックな“愛のコリーダ”/ SNS時代の“花嫁年華”  
ザ・スプール誌

現代のロマンチック傑作奇譚！  
— 阪本順治 (映画監督)

主人公が魅力的な映画は、  
何をしたら許される。  
前衛的な作りにも、とんだ感情移入してしまう。  
— 内田英治 (映画監督)

映画は“顔、だと思っています。  
この映画は主演の永井秀樹さんをはじめ、  
顔や顔が香りを放って、  
吸い寄せられて、絡めとられる！  
— 福原充則 (脚本家・演出家)

今年、最高の映画の一つ。  
アジアンムービーバズ誌

すごい才能を見つけた。  
大阪アジアン映画祭

SNS 全盛期の昨今において一石を投じる問題作！ きっと途中から  
「あなた」の物語に変わる。 — 有村昆 (映画コメンテーター)

長い沈黙が美しい時間になり、  
やがて息苦しい沈黙に変わり、すがすがしい沈黙へと続く。  
— 平田オリザ (劇作家)

生きている実感をおぼえにくい  
今だからこそ観る映画です。  
— 市井昌秀 (映画監督)

89 分間飽きることなく  
画面に集中していました。  
— 部谷京子 (美術監督)

今、最も大胆で有望な監督。  
ファンタジア映画祭

# その写真の私と、 結婚したいと思いませんか？

## 偽りなき愛に目覚めてゆく 二人の出会いの奇跡

時が止まったような父の残した写真館で、レタッチ(写真の加工修正)を行う女性恐怖症の男・械(50)は、ある日、体に傷がある女キョウコと出会う。械はキョウコに頼まれ、画像処理によって傷のない美しい姿を生み出す。その姿に魅了されるキョウコであったが、心の奥底で、自分の存在が揺らぎ始める。理想の自分と現実の自分、二つの自分の溝に落ちたキョウコは、精神的混乱に陥ってゆく。やがて、完全に自分を喪失するキョウコ。もはや、自分だけがキョウコを救うことができると感じた械は、死を覚悟して、女を愛する決意をする。

世界の映画祭が  
興奮した  
新ジャンル映画が  
ついに凱旋公開

2020年3月に第15回大阪アジアン映画祭でワールドプレミア以来、世界中の映画祭から上映オファーが相次いでいる本作。60以上の国際映画祭に正式出品され、グランプリを含む20冠を達成し、2021年初春、渋谷ユーススペースを皮切りに全国公開が決定。『写真の女』が描く、国境・言葉・文化・人種を超える愛は、世界中の観客に、映画の喜びを届ける事になるだろう。

写真の女

2021年1月30日(土) 渋谷ユーススペース他 全国順次公開